



〒344-0001
埼玉県春日部市不動院野1112-1
TEL048-760-1200
FAX048-760-1201
https://www.kasukabe-saintnoah.jp



～目次～

- 病院短信 『人生の課題』 高野副院長
- 日常の一コマ 大草 めぐみ
- いきいき看護・介護 宇佐美 孟
- 医事課だより 森川 雅子
- 誕生日会&七夕 デイルーム&談話室
- スタッフ紹介 中村 澄子

8月の予定

◇誕生日会

1病棟	8月10日(火)
2病棟	8月11日(水)
3病棟	8月13日(金)
各病棟デイルーム 14:00～	



誕生日会&七夕会

男性(ひこ星) ♠
対
女性(おり姫) ♥

玉入れゲ〜〜ム

さあ、勝敗の行方は(`ー´)ノ

願いごとが叶います様に(*´▽´)

七夕に由来したクイズもやりましたよ♥

紙相撲対抗戦♥「はつきよい」「のこった」 勝者〜 (`ー´)ノ



さら 花香に つつまれる

スタッフ紹介

栄養科 なかむら すみこ
中村 澄子

以前は老健で働いていました。セントノア病院は今まで居た所よりも食数が多く、毎日時間との戦いですが、充実した日々を過ごしています。趣味はお菓子作りと食べること。体調管理に気を付けながら、仕事もプライベートも頑張っていこうと思います。

病院短信 副院長 高野 正孝

『人生の課題』

暑い夏の日々が続きます。入院患者さんのコロナ予防接種も完了し、一段落つきました。世間の喧騒に振り回されることなく、自分の心身を整えて次なる試験に備えましょう。さて今回は「人生の課題」について書いてみます。

『人の一生は重荷を負うて遠き道を行くがごとし』これは徳川家康の遺訓です。

すべての人が、それぞれの人生の課題（重荷）を負って生きています。

病院ではたくさんのお患者さん、その家族と出会います。

私は患者さんの課題をともに背負って、その人生を完結させて上げられたらと念じながら、病院の日々を過ごします。



ある日、85歳の認知症の女性患者さんが入院しました。認知症は中等度で、不安神経症に近い病状でした。病院のルールで、入院して2週間が経つと、患者さんの入院生活の様子をキーパーソンに話します。キーパーソンは50歳の娘さんでした。病状説明はナースセンターの一角にある診察用デスクの前で行います。キーパーソンの娘さんが入ってきました。入院時もそうでしたがやや暗い表情です。入院時検査の結果の説明や入院後の生活の様子を一通り説明しました。

「何かご質問はありませんか」そう私が言うと、娘さんはおもむろに語り始めました。

「本来は私が自分で見るべきなのに、病院に入れてしまって……。何か罪悪感のようなものを感じます……。身の上話をいかにも申し訳なさそうに話されます。娘さんは患者さんの養女でした。小さい頃に両親と死別し、患者さんの養女として育てられたのです。

患者さんが80歳になるまでは、娘さんはいっしょに暮らして面倒をみていました。

ところが認知症がだんだんひどくなり、働いている自分では世話することができなくなると、この病院に入院させることになったのです。

それで罪悪感を感じていたのです。それは当の本人でなくては分からない、複雑な心境なのです。

一通り話され娘さんが目を落としたその時、ふと私がホールに目をやると、彼女の肩越しに、ちょうどその患者さん（お母さん）がテーブルの仲間たち数人と笑いながら話しているのが見えました。私はそれを指差して、「あそこを見てください！」娘さんは後ろを振り向き、しばらくホールのお母さんを見つめていました。私はそこで言いました。

「あんなに楽しそうに笑顔で話しているのですよ。よくご覧になってください。あなたは素晴らしい贈り物をお母さんに上げたのですよ」

娘さんはだまって聞いていました。

「罪悪感など少しも持つ必要はないと思います。逆にこんないいことをしてあげたと自分を褒めてあげてください」その言葉を言い終わる頃に、娘さんの顔つきが少し変わるのが分かりました。暗い表情が少し和らぎ、穏やかな顔になったのです。

「ありがとうございます。これからもよろしくお願ひします」そう言われて帰って行かれました。それからまた2週間ほどして、お母さんに面会に来られた際、ぜひ私に話がしたいと娘さんはナースセンターにやって来られました。

その時の表情は満面の笑顔でした。憑き物が取れた、とても言えるような軽やかな表情だったので。

「あの時、話を聞いて心が晴れました」本当に嬉しそうに話されます。

「お母さんのケアは私たちに任せて、ご自分の納得できる人生を歩んでください」

何度も何度もお辞儀して帰って行かれる姿が、目に焼きついています。

それから娘さんは、働いてお母さんの生活費を稼ぎながら、度々面会に来られていました。

日常の一コマ



今回は2病棟のスエ子さん（92歳）をご紹介します。実はスエ子さんは入院当初から拒食・拒薬・介護拒否がとても強く、看護・介護の非常に難しい患者さんでした。そこで主治医の先生を交え、スタッフ全員で何度もカンファレンスを行い、対応策を検討してきました。結論は日常の看護・介護業務にこだわらず、その時のスエ子さんの気分、精神状態に合わせた対応をする、ことにしたのです。

現在でも、内服薬は一切拒否します。食事も食べたくない時は1日中何も口にせず、眠り続ける日もあります。お腹が空けば時間に関係なく、夜中でも「ご飯くださいー！」と大きな声で要求します。そんな時はいつでも出せるように用意してある『補助食品』を食べただけ食べさせてあげます。最近では食欲もアップし、お昼のご飯は他の皆さんと一緒にご飯を食べています。

また、入院当初、良く聞かれた生まれ故郷の「山口に帰りたい！」という帰宅要求も口にされなくなりました。そして元気な時は車椅子を自走し、廊下を自由に行き来されています。普段はオムツ対応をしていますが、トイレ誘導で排泄出来ることもあります。ただ、拒否の強い時は排せつ介助や入浴介助は難航します。排便処置をするときは排便が終わるまでベッドサイドで付き添い見守ります。

そんな私たちの様子を見て「皆さんも大変ね。いつもありがとうございます。心の中で感謝しているのよ。」と笑顔で言ってくることがあります。そんな日は私も心から嬉しく、「よかったー」と思います。そしてスタッフ全員でこの喜びを共有します。

入院されて7年。セントノア病院の理念『その人らしく』を貫く（ちょっと違うかな）スエ子さん。病棟のスタッフ全員が応援しています。

2病棟 介護福祉士 大草 めぐみ

一コマ後記

ご家族に新聞に掲載することの承諾を電話で伺うと「母を7年間も元気に看ていただいて感謝しています。自分の母ですが、どれだけ大変か想像が付きません。母は異常なんだと思っていましたが、他の患者さんのエピソードを読ませていただいて『そうそう、そんなこともあった。自分だけではなかったんだ。』と元気になり、刺激を受けています。大変だったときは病気だと分かっているもついで…。（長男さんは介護のため退職して面倒を看られた経緯がある）今、自分もこの年になって分かることもあります。私は病気の母のことを偏見で見ているのかと反省しています。他のご家族も、私と同じようにこのコーナーを読んで、何かを感じてくださっていると思います。私はこのコーナーを、今一番楽しみにしています。ぜひ長く続けてほしいと願っています。」と快諾のお返事をいただきました。

ホスピタルライフマネージャー 田中 ひとみ

医事課だより

医事課 森川 雅子

梅雨が明けたら、あっという間に夏到来！すでに猛暑が続いています。睡眠・水分・食事をきちんと摂って熱中症には気を付けましょう。

当院では、患者さんのコロナワクチンの予防接種もようやく2回目が終わったところです。

ご家族の皆さまには、面会中止のご理解ご協力を頂きありがとうございます。

先月ご案内しました保険証・減額認定証・限度額認定証等の期限が切れている方がいらっしゃいます。それぞれの保険者から新しい保険証が届きましたら、病院へご提示、又はご郵送をお願い致します。確認が取れない方にはお電話させていただきますので、ご協力をお願い致します。又、住所が変わった方、75歳の誕生日を迎えた方、限度額認定証の適応になった方、区分が変わった方がいらっしゃいましたら、必ずその月のうちに保険証を拝見させてください。遅れると請求の金額が変わり、返金や追加の金額をいただくことになってしまいます。分からないことがあれば病院（医事課）までご連絡ください。よろしく願い致します。

又、ご面会が自由に出来ない今、どんなことでもお電話いただければ、患者さんとのパイプ役としてお手伝いさせていただきます。

3年後、娘さんに看取られて患者さんは亡くなられました。すべての人はそれぞれの人生の課題を背負ってそれぞれの道を歩んでいます。徳川家康の遺訓のとおりです。私たち医療者は、その課題を完結させて上げるべく、患者さんやその家族に対峙していると思います。私はキリスト者として魂の存在を信じています。回診をしながらそれぞれの患者さんの魂に呼びかけます。「あなたはどうかありたいのですか」

いきいき看護介護

1病棟

看護師

宇佐美

孟



新型コロナウイルス禍における熱中症予防行動。まず、現在では当たり前となった感染予防

- 1、身体的距離の確保
- 2、マスクの着用

- 3、手洗い、3密（密集・密接・密閉）対策を行う

夏を迎えた今、これら感染予防対策によりいっそう熱中症にも注意が必要です。

・7月号でも取り上げられていたマスクの着用による心拍数や呼吸数、血中二酸化炭素濃度、体感温度が上昇することによって、身体への負担がかかります。高温、多湿といった環境下でのマスク着用は、熱中症のリスクが高くなります。

・熱中症予防として、エアコンの活用は有効です。ただし、空気の循環は出来ませんが、換気は行えないため窓を開ける、換気扇を回すなどの対策も必要となります。

・毎朝など、定時の体温測定、健康チェックも熱中症予防に有効です。

最後に体調が悪いと感じた時は、無理せず自宅で静養するようにしましょう。